

花山寺に(みくし)おはしまし尊敬「ませ」用着きて、御髪下ろさせ給ひて
⑤作者↓帝 ⑤作者↓帝

のちにぞ 粟田殿は、「まかり係助出でて、大臣にも、
④粟田殿↓帝

変はらぬ姿、いま一度見打消「ず」体え、かくと案内(あない)申して、
下二・用(見せる) ④粟田殿↓父大臣

必ず参り意思「む」終侍らむ。
④粟田殿↓帝 ①

と申し過去「けり」已給ひければ、「我をば、はかるなりけり。
④作者↓帝 ⑤作者↓粟田殿 断定「なり」用 過去「けり」終

とこそ、泣かせ尊敬「す」用 過去「けり」已給ひけれ。
⑤作者↓帝 係助

あはれに悲しきことなり断定「なり」終な。
形動・用 形容詞・体 終助・詠嘆

日ごろ、よく御弟子にて候はむと契りて、すかし
④粟田殿↓帝 意思「む」終

申し過去の伝聞「けむ」体給ひけむがおそろしさとよ。
④作者↓帝 ⑤作者↓粟田殿 間投助

花山寺にご到着になって、御剃髪なさったあとに、

粟田殿が、「(一度)退出し申し上げて、父大臣にも、

出家前(俗体)の姿を、もう一度見せ、このように
と事情を申し上げて、

必ず(ここへ)参上いたします。」

と申し上げなさったので、「私を騙したのだなあ。」

とお泣きなさりました。

お気の毒で悲しいことですよ。

(粟田殿は)普段から、(帝に)しばしば御弟子とな
ってお仕え申し上げます、と約束して(帝を)

騙し申し上げなさったとかいうことが恐ろしいこと
ですよ。